

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

パーパス

多様な「みえる」喜びを創造できる社会の実現。キャッチコピー『まだみぬ、世界は、美しい』

月間最大生産枚数
7,900万枚月間最大生産枚数
8,900万枚CO2排出量原単位削
50%原単位排出量
23.15g/枚

② 中長期の経営戦略

1. 生産能力の抜本的引き上げ

鴻巣研究所で4号棟を2024年11月着工。2026年1月建屋竣工、3月生産開始予定。段階的に1,400万枚+1,000万枚の増産を実現

2. スペシャリティレンズの強化

国産「シード1dayPureシリーズ」の乱視用・遠近両用に注力。2025年5月納期正常化後、流出顧客回帰と新規獲得を推進

3. 新商品開発・上市

シリコンハイドロゲルレンズを治験終了段階まで進行。2024年12月に遠近両用サークルコンタクトレンズ発売。カラーレンズの拡充

4. 海外市場の販売活性化

生産回復に伴い海外販売を活性化。円安メリット活用。2025年4月のScotlens取得、ベトナム・マレーシア現地法人で2026年3月期から連結対象

③ 対処すべき課題

① 世界経済の不確実性

- ・ 米国政権交代による関税・貿易制限が物価・為替・金利に影響。地政学リスク長期化で先行き不透明
- ・ 資材・配送・人件費の高騰継続が懸念。消費者マインドに陰りの兆し

② 国内市場の成長制約

- ・ 高齢化と人口減少が進展。スペシャリティレンズと価格転嫁で当面安定成長と推測
- ・ 海外市場（アジア・インド・中近東など新興国）の需要拡大が事業機会

③ 気候変動関連リスク対応

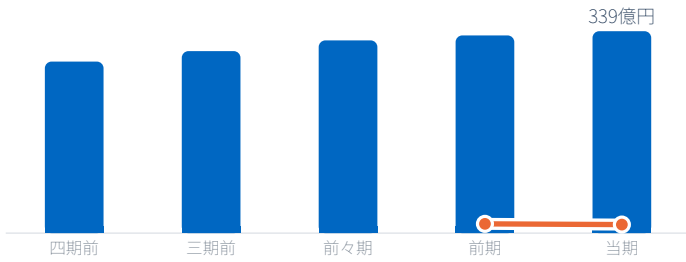
- ・ 製造設備地域での災害リスク、サプライチェーン寸断リスク対応が必要
- ・ カーボンプライシングや環境法令強化によるコスト増に対応。環境配慮商品・機能性コンタクトレンズの開発機会

面接で使えるポイント

- ・ 1957年創業の眼の専門総合メーカーとして、コンタクトレンズ市場の成長をけん引。
- ・ パーパス『多様なみえる喜びを創造できる社会』実現に向け、スペシャリティレンズとシリコンハイドロゲルの新商品で市場機会を…
- ・ 2050年カーボンニュートラル目標と2030年50%原単位削減目標を掲げ、環境経営とSDGs推進で社会課題に対応

証券コード 7743

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

要するに
コンタクトレンズとそのケア用品の製造・販売を主
要事業とする精密機器メーカー

主力事業・セグメント

- ・精密機器（セグメント未開示）

強み・特徴（公開データから）

- ・－（判定に必要な数値が未開示）

※要約はAI生成のため誤りを含む可能性があります

暗記する数字3つ

連結売上高
339億円営業利益率
4.2%財務健康度
26点 / 100点

将来性 曇り時々雨 / 就活偏差値 41.3（当サイト算出の参考指標）

平均年収
600万円

精密機器内 41位/50社

平均年齢
36.8歳

精密機器内 50位/51社

平均勤続
12.8年

精密機器内 27位/51社

女性管理職
24.6%

精密機器内 5位/39社

男性育休
77.8%

精密機器内 26位/35社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: (株)シード【7743】：決算情報

